



○ ジブリⅡ

つづきです。ジブリ作品には空を飛ぶ場面が非常にたくさん登場します。「ポニョ」のように“水の中を飛ぶ”と考えると、飛ぶ場面はもっと多くなります。「私には空を飛ぶ夢があります。」と「たより②ドローン」で少し紹介しました。ひょっとしたら人類はみんな空を飛びたい願望をもっているのではないかと思います。そのこともジブリ作品が大人気である要因だと思います。

②では空撮する場面での構想力と計画性、映像のセンスなどの大切さについてちょっと紹介しました。そのことを学ぶのに今回のジブリ展は大変素晴らしい内容でした。「レイアウト展」でしたからね。IT ビジネス科の学生たちはそのことをどれくらい吸収できたでしょうか。そしてその次の撮影演習に生かされたでしょうか。

結果的に学生と鑑賞の時間を共有できなかった私は、一つひとつの原画を見ながら、あえて“ケチ”をつけようとしていました。アニメーション制作にかかわったことのない私がそんなことを考えるのは恐れ多いこととは思いますが、その方が違ったものも出てくるように思います。そうして見つけたものの中の一つは田んぼの描き方でした。

実家が農家である私は百姓としては半人前ですが、ずっと田んぼを見ながら育ちました。今は米作りを休止していますが、遠い川から水を引く水路の保全（簡単に表現すれば草刈り作業と溝の砂堀り作業です。）にはかかわっています。昔は地域のみんな（30人超くらい）で行っていた作業を今は4人で行うので大変です。そのようなことから水の流れと田んぼの形にはちょっとこだわりがあります。

原画の田んぼはみんな比較的整った四方形が並んでいるように見えました。今でこそ区画整備された田んぼは多くありますが、私には不自然に見えたのです。しかし、次のようにも考えてみました。あえて単純化した形の方がアニメーションの動きの中ではかえって“田んぼらしく見える”のではないかと。スタジオジブリに確認したわけではありません。私が勝手に想像して楽しんでみました。そういったことを想像しているとさらに奥深さを感じてしまう私です。

それにしても自然の描写はすごいですね。私は人工物や人物よりも草木などの表現に感心してしまいます。茎から出ている様々な葉っぱの向きもていねいに観察してあります。「トトロ」に出てきた武蔵野台地の夕焼けは私もよく見ていました。なつかしく思いました。「もののけ姫」では尾根を疾走する登場人物のはるか彼方にひろがる山々の広がり爽快感を感じました。「草木」を見ていると私は「鳥獣人物戯画」（学生時代に模写をしたことがあります。）に描かれているものを思い出します。はるかな山々は東山魁夷氏の作品と重なります。それらのものをどの角度で、どの距離から、どのような手法で表現するかという議論が活発に行われたのでしょうか。



模写をしてみると茎や葉などが一筆で描かれていることに気づきました。

鳥獣人物戯画 第16紙—18紙 Wikipedia から